みやぎの 林業だより

表紙写真

南三陸森林管理協議会では，県内初となるＦＳＣ国際森林認証制度に基づく森林管理認証（ＦＭ認証）を取得しました。

＜写真大＞
認証の対象となった南三陸町内の森林

＜写真小＞
認証授与式

＜関連記事P2＞

平成28年3月25日
発　　行
208号

目次

話　題
◎県内初のＦＳＣ森林管理グループ認証を取得…… 2
◎「宮城県ＣＬＴ等普及推進協議会」が発足…… 2
◎第一回「ウッドデザイン賞」に登米管内から三作品が入賞！…… 3
◎木造公共施設整備の推進…… 3
◎宮城県産木材を使用した家具の利用拡大…… 4
◎栗原産木材の強度試験はいかに!?…… 4
◎原木しいたけ生産復活に向けた挑戦
～ 仙台管内における出荷規制解除に向けた取組 ～ …… 5
◎「花山の林業」を体験学習！…… 5
◎女川町における企業支援による里山林再生活動…… 6
◎地元企業による里山保全「ムラタの森」協定を継続…… 6
◎「わたしたちの森づくり事業」植樹祭が開催されました…… 7
◎「みやぎバットの森植樹祭」の開催について…… 7
◎「海岸防災林再生・きずな苗木植樹」の開催について…… 8
◎友好都市との「絆」で海岸林の復旧を！…… 8
◎森林整備に係る補助金の動向について…… 9
◎巣植え造林の取組について…… 9
◎春の山火事に御注意ください！…… 10
◎松島の松林再生に向けた植栽対策について
～ 試験植栽を実施中です ～ …… 10
◎県民の森中央記念館のリニューアルオープンについて…… 11
◎施設災害復旧工事の進捗…… 11
◎ミニ情報コーナー
・林業技術者記章の交付開始！ …… 11
シリーズ ◎研究情報コーナー
・海岸林造成に向けた広葉樹の育苗技術に関する取組 …… 12
シリーズ ◎森林管理署情報
・採材に関する現地検討会を開催しました …… 12
市　況 ◎木材市況の動向・特産市況の動向…… 13

―― 伐採の届け出・森林の新規所有の届け出は、市町村へ ――

県内初のFSC森林管理グループ認証を取得

南三陸森林管理協議会（会長佐藤久一郎氏）が、県内初となるFSC国際森林認証制度に基づく森林管理認証（FM認証）を十月七日付けで取得しました。

今回の認証は、南三陸町、大長林業、（株）佐久、慶應義塾の四名が所有する一、三二四ヘクタール（町内森林面積の約一割）の森林を対象とした森林管理に関するもので、FSCの定める森林管理に関する十の原則と五十六の基準に沿って、書類審査、現地審査が行われ、適切に森林管理が実施されていることを認証されたものです。

認証材は、FSCによる木材の加工流通に関する認証、CoC認証を取得した事業体による加工・販売を実施することで、初めてFSC認証製品としての販売が可能となるため、協議会では、今回のFM認証と同時に木材加工のCoC認証を取得した丸平木材（株）や、既にCoC認証を取得している石巻合板工業（株）と連携し、FSC製材品・FSC合板の製品化を図るほか、LVLや集成材としての製品化を図り、多くの消費者に向けたFSC製品提供への事業展開を行っています。

認証授与式で、佐藤南三陸町長が、「森林のFSC認証を契機に、海の認証制度によるカキ養殖のASC認証取得と合わせ、森・里・海の有機的なつながりを生かした南三陸町復興への取組を全世界に向けて発信したい。その第一歩として、FSC製品を町庁舎建設に積極的に活用し、認証製品のモデル施設としてPRしていく」と発言するなど、FSCを活用した関係者による復興への取組が本格化しています。

認証における現地審査の様子

（気仙沼地方振興事務所）

「宮城県CLT等普及推進協議会」が発足

去る二月二日、仙台国際センターを会場に「宮城県CLT等普及推進協議会」の設立総会、記念式典、記念講演が開催されました。

設立総会の様子

この協議会は、CLTやLVL等の新しい木質材料を活用して、非住宅分野における木材利用を推進するため、林業・木材・建築設計・建設業の六団体により設立されたもので、初代会長には宮城県森林組合連合会の齋藤司代表理事会長が就任しました。

都道府県単位の協議会としては全国で十一番目、東北では福島県に続いて二番目の設立となります。

設立時の会員数は七十九（団体四、企業六十、個人三、行政十二）で、業種別では森林組合のほか木材・木製品製造業、設計事務所、建設業等がバランス良く参画しているのが特徴となっています。

今年四月にはCLT工法に関する基準強度の告示や一般的な設計方法に関する告示が行われる予定となっており、協議会としても平成二十八年度事業で会員間の協力によるCLT工法建築物のモデル施工を計画するほか、CLTや木質構造に関する勉強会や先進地視察などを予定しています。

また、今年十一月には県内初のCLT工法による建築物が多賀城市に完成する予定となっており、当施設の構造見学会も行う計画としております。

入会手続き等については、協議会事務局の宮城県森林組合連合会へお問い合わせください。

（林業振興課　みやぎ材流通推進班）

第一回「ウッドデザイン賞」に登米管内から三作品が入賞！

木の良さや価値を再発見させる製品とその取組を顕彰する「ウッドデザイン賞」が今年度新たに創設されました。全国の応募総数八二二点のうち、三九七点がウッドデザイン賞に決定し、管内からは三作品が受賞しました。

受賞作品は次のとおりです。

【ライフスタイルデザイン部門】

①BON（二〇一四年度グッドデザイン賞をW受賞）

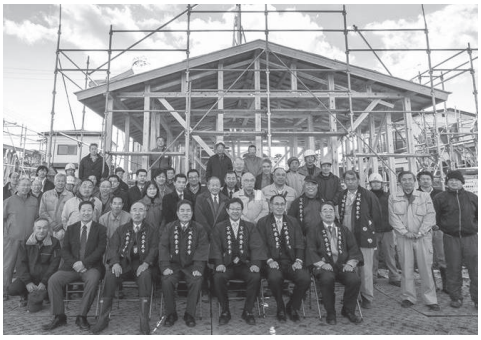
①BON
（津山木工芸品事業協同組合）

【ソーシャルデザイン部門】

②間伐材活用学生机ナラ天板

②間伐材活用学生机ナラ天板
（登米町森林組合・（有）ウッディアベ工芸）

③地域材・地域雇用による災害公営住宅の建設体制の構築



③地域材・地域雇用による
災害公営住宅の建設体制の構築
（登米市木造災害公営住宅建設推進協議会）

（東部地方振興事務所　登米地域事務所）

木造公共施設整備の推進

仙台地方振興事務所管内では、近年、仙台市の泉岳自然ふれあい館をはじめ、教育・子育て支援施設を中心に、県産木材をふんだんに使用した公共施設の整備が進められています。

木材を利用することは、森林・林業の活性化だけでなく、木材の持つ調湿効果や暖かさ、柔軟性により、快適な居住空間に大きく寄与しています。

さらに、木材が醸し出す柔らかさやリラックス効果は、様々な年代が利用する公共施設にこそ求められる性質であり、利用者に癒やしをもたらします。

木の癒やし効果が発揮された保育園

今年度は利府町において、利府三小児童クラブ（施設名称）が新設されました。施設は、児童の利用だけでなく、地域住民との交流の場として活用できる拠点として整備され、延べ床面積約二百三十平方㍍の二階建て構造に、四十六立方㍍の木材が使用されています。また、内装には県産木材を使用した腰板や棚をあしらうなど、木材を視覚に訴える仕上がりとなっています。

二月に完成した施設では、早速、地域住民を招いた内覧会が開かれ、訪れた町民から好評を博したようです。

児童クラブの構造部全景

今後も、様々な公共施設の木造化や内装等の木質化が進められるよう、支援に努めてまいります。

（仙台地方振興事務所）

宮城県産木材を使用した家具の利用拡大

宮城県では、木の良さを普及啓発するために、みやぎ環境税を活用して「木の香る公共建築・おもてなし普及促進事業」を実施しており、東部地方事務所管内でも県産木材の利用拡大が進んでいますので紹介します。

①学校法人石輝学園矢本はなぶさ幼稚園（東松島市）

同園は、東日本大震災の津波により二階建て園舎の一階天井部分まで浸水するなど大きな被害に遭いました。被災した一階教室の園児用ロッカーなどを更新するに当たり、県産スギで製作されたものを導入しました。

矢本はなぶさ幼稚園のロッカーと整理棚

施設担当者は「ぬくもりがあるので園児だけでなく保護者にも大好評。傷が付かないように園児達が大切に扱うようになるなど、思わぬ良い影響が出ています」と話されています。

②医療法人社団健育会ナースインホームひまわり（石巻市）

看護小規模多機能型居宅介護事業所の新築に当たり、食堂に県産スギのテーブルや椅子を、また屋外には県産ヒノキのテーブルと椅子を導入しました。

「木のぬくもりが利用者や訪問者に高い評価を得ています。触れても冷たくないのがいいですね」と施設担当者は喜んでいます。

当事務所では、引き続き県産木材利用の普及啓発に努めてまいります。

ナースインホームひまわりのテーブルと椅子

（東部地方振興事務所）

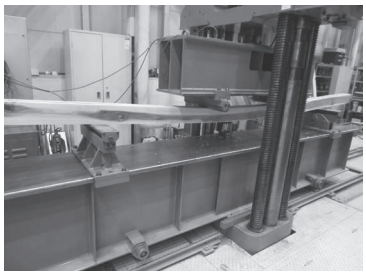
栗原産木材の強度試験はいかに!?

栗原管内には、長年地域で産出される木材を天然乾燥して一般木造住宅を建築している工務店が数社あります。今回その中の一社から、「栗原産木材を天然乾燥した材と人工乾燥した材の比較強度試験を行いたいので技術面で協力してほしい」との依頼があり、実施に向けて関係機関と調整を図りました。

技術協力には、宮城北部流域森林・林業活性化センター栗原支部（事務局：栗駒高原森林組合）と地元にある東北職業能力開発大学校に快く引き受けていただきました。試験内容は、天然乾燥材と人工乾燥材の表面含水率測定・梁部の曲げ強度破壊試験・全乾測定とし、併せて当校の建築施工システム技術課職員による木材の性質と力学の講義を行うこととなりました。

当日は、活性化センター支部、栗原地域事務所、工務店及び製材会社から二十人ほどが東北職業能力開発大学校に参集し、講義受講後、各種試験を実施しました。木材強度試験では、全乾測定で含水率三〇％前後の天然乾燥材でも曲げ強度を十分保持している結果となり、改めて地元工務店が得意とする在来軸組工法の梁などに自信を持って利用できることがわかりました。

今回の試験と講義は、天然乾燥材を扱う製材会社や工務店にとって、木材を理論的に考える絶好の機会になりました。今後は業界関係者と更に勉強会を実施しながら、付加価値の高い栗原産材の製品開発につなげていきたいと思います。



木材強度試験の様子

講義の様子

（北部地方振興事務所　栗原地域事務所）

原木しいたけ生産復活に向けた挑戦
～仙台管内における出荷規制解除に向けた取組～

当管内では、原発事故の影響により、平成二十四年四月二十七日に仙台市及び名取市で原木しいたけ（露地栽培）の出荷制限指示が出されて以降、今なお五市町村において出荷制限が続いています。

こうした状況を打開し一日も早い出荷再開を実現するため、生産者やJA、市町村等の関係者と県が連携しながら、①研修会や現地検討会の開催、②生産現場巡回による個別相談、③安全で無理のないオリジナルの栽培手法の検討、④市町村協議会の設立・運営、⑤イベントにおける消費者へのPRなど、出荷規制解除と解除後の管理体制の構築に関する様々な取組を進めてきました。

その結果、取組を開始した平成二十六年八月から、一年半という短期間で解除に向けた機運が加速的に高まり、これまでに三市町十名十九ロットにおける規制解除が実現しました。

さらに、解除指示を受けた生産者をサポートし、出荷再開を広く消費者へ向けてPRする活動として、九月に勾当台公園市民広場で開催された「仙台市地産地消イベント」、十月に大和町で開催された「たいわ産業まつり」、十一月に行われた仙台市太白区の「秋保ヴィレッジ『アグリエの森』」収穫祭において、原木しいたけ植菌体験や栽培キット抽選会、ステージPRなどを実施しました。

いずれのイベントも大盛況となり、生産者・JA・市町村・県などが一緒に取り組むことで自然と一体感が生まれました。

今後も、継続的な取組として定着するよう、関係者と連携を図りながら生産者支援を続けてまいります。

（仙台地方振興事務所）

原木しいたけ生産復活をPR

オリジナル表示シール

「花山の林業」を体験学習！

栗原市立花山小学校では、五・六年生を対象に「花山の林業」をテーマにした自然体験授業を隔年で実施しています。今年度は三回にわたって授業が実施され、当事務所の林業普及指導員がその支援を行いました。

一回目は、身近な森林へ興味を持ってもらうため、「林業の仕事と森林の大切さ」について学びました。六年前、岩手・宮城内陸地震の復興祈念として先輩達が植栽したスギの苗木に肥料を撒く作業を行ったほか、森林組合の現場を訪問し、高性能林業機械を用いた立木の伐採や玉切りなどの作業を見学しました。

二回目は、花山地域の主な産業のひとつである「きのこ栽培」について学びました。普及指導員がクイズ形式できのこの生態を講義し、その後、ハタケシメジのプランター栽培に挑戦しました。毎日の水やりなど苦労の甲斐があって、約一ヶ月後にはプランター内に大きなハタケシメジの株がいくつも発生し、児童自らが収穫した後、調理用に下ごしらえを行いました。

三回目は、「花山で伐採された木はどこに運ばれて何になるか」を学ぶために、石巻の合板工場を訪問し、山から運び込まれた丸太が、様々な工程を経て合板に加工される様子などを見学しました。

豊かな森林に囲まれた花山地域では、素材生産や特用林産物生産をはじめとする林業が、主要な地域産業のひとつとなっています。林業への関心が薄れる中、次代を担う子供達が森林の重要性を知り林業の役割を理解することで、地域の産業について考える機会となり、さらには郷土愛を育んでもらえればと思います。

（北部地方振興事務所　栗原地域事務所）

合板工場で加工される木材を見学

女川町における企業支援による里山林再生活動

仙台ターミナルビル（株）は、松くい虫及びシカ被害を受け荒廃した女川町有林を復旧するため、平成二十五年八月に「みやぎの里山林協働再生支援事業」により、女川町と約一ヘクタールの森林整備協定を締結し、これまでの二年間で、コナラやヤマザクラ等二千九百六十本の植栽を実施してきました。

今年度は、継続活動として、平成二十五年度に植栽した箇所の下刈作業を十一月三日に実施しました。

活動前の打合せ

当日は、社員五十三名が参加し、女川町とNPO法人女川ネイチャーガイド協会の指導のもと、手鎌で丁寧に作業を行いました。

現地では、ヤマザクラの枝先や樹皮の一部にシカによる食害が見受けられましたが、シカの侵入経路が判明したため、防鹿柵を管理する女川町が対策を講じることになりました。

来年度は、平成二十六年度に植栽した箇所の下刈を計画しており、当事務所でも本活動が適期かつ安全に行われるよう引き続き支援を行ってまいります。

活動の状況

（東部地方振興事務所）

地元企業による里山保全「ムラタの森」協定を継続

里山林は、人々の営みにより生物多様性に富んだ自然環境が維持されてきましたが、近年は人の関わりが薄れ、結果として手入れが行き届かない里山林が増えつつあります。

その一方、環境に配慮した社会貢献の一環として、森林づくりに取り組む企業等が増えており、県は「みやぎの里山林協働再生支援事業」により、森林づくり活動を行おうとする企業等と、活動の場を提供できる森林所有者との橋渡し役となることで、里山林の保全を進めています。

このような中、株式会社登米村田製作所（登米市迫町）は、米川生産森林組合（同市東和町）と平成二十三年に協定を締結し、「ムラタの森」と命名した三十六ヘクタールに及ぶ里山林を活用して活動に取り組まれています。

この協定の期間が平成二十七年度末に満了することから、去る一月二十二日に改めて協定が締結され、継続して保全活動に取り組まれることになりました。

これまでの五年間に、同社の社員やその御家族が、米川生産森林組合と協働して約二千本のヤマザクラ等を植樹したほか、米川地区の特産品である山菜やマイタケの収穫体験や発生環境の保全にも取り組まれており、このような活動を通じて、活動の意義や、自然への感謝の気持ちを実感していただいたと思います。

同社は、地域と連携して末永く里山林の保全に取り組みたいとしており、今後の活動にも期待が高まります。

当所では、このような取組を今後さらに広げ、登米市の里山林を美しく再生してまいります。

（東部地方振興事務所
登米地域事務所）

「わたしたちの森づくり事業」植樹祭が開催されました

森林整備課では、県有林（県が所有する森林）を森づくりやレクリエーションの場として企業や団体に提供する、「わたしたちの森づくり事業」を実施しています。社会貢献活動の一環として、また、社員同士の親睦を深める場などとして、様々な目的で県有林が活用されています。現在、県では十四の企業と森づくり協定を締結し、活動が行われています。

そうした中、平成二十七年十月十七日に公益財団法人ニッセイ緑の財団と協定を締結している「森から考えるＥＳＤ学びの森」で、植樹祭が開催されました。植樹祭会場は利府町にある県民の森近くの県有林で、協定を締結した区域の樹種は広葉樹・スギ・ヒノキです。

植樹祭には日本生命関係者や近隣住民の方々など、約百二十名が参加。開会式及び看板の除幕に続き、宮城県森林インストラクター協会の指導のもと、広葉樹の植樹作業やヒノキ林内の整備を行いました。

当日は気持ちの良い秋晴れで、参加者の方々は慣れない山道具に四苦八苦しながらも、森林での作業を楽しんでいました。

（森林整備課県有林班）

「森から考えるESD学びの森」
植樹祭集合写真

森林インストラクターによる
植樹作業の指導

「みやぎバットの森植樹祭」の開催について

県では、平成十七年にプロ野球球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」が誕生したのを契機に、同球団の活躍と、地域に密着した野球文化及びみどりの文化の末長い隆盛を願い、「みやぎバットの森植樹祭」を県内各地で開催し、地域の方々との協働により、バットの原木となるアオダモを主とした広葉樹の森づくりを進めています。

十一回目となる今年度は、十一月七日に登米市津山町の市有林において開催しました。

当日はあいにくの小雨模様でしたが、スポーツ少年団員やみどりの少年団員など約百五十人が参加し、アオダモ七十五本、コナラ、クヌギ、ヤマザクラをそれぞれ二十五本、合計百五十本の苗木を一本一本丁寧に植えました。

植樹後には、楽天野球団のジュニアコーチによる野球教室が開催され、スポーツ少年団の子どもたちは、楽しみながら熱心に指導を受けていました。

（自然保護課みどり保全班）

みんなで植栽

植栽後の集合写真

「海岸防災林再生・きずな苗木植樹」の開催について

東日本大震災による津波で甚大な被害を受けた海岸防災林の再生を図るため、平成二十七年十一月二十一日に亘理町内において、県内のボランティア団体等との協働により、「海岸防災林再生・きずな苗木植樹」を開催しました。

この植樹に使用された苗木は、震災からの復興を支援する目的で、鳥取県（コナラ・クヌギ・ケヤキ千本）や石川県（抵抗性クロマツ千本）から寄贈いただいたものです。

当日は天候に恵まれ，風もほとんどない絶好の植樹日和の中、この苗木を育ててくれた鳥取県の小学生など、参加者約九十人が高く太く育つよう願いを込めて、苗木二千本を一本一本丁寧に植えました。

今回植樹した全ての苗木が海岸防災林へと成林し、後背地への飛砂防備や潮害防備の機能が発揮されるものと期待しています。

（自然保護課みどり保全班）

鳥取県の小学生と
みちのく仙台ORI☆姫隊

植樹後の記念撮影

友好都市との「絆」で海岸林の復旧を！

平成二十七年十一月二十八日に、山形県東根市内の小学校九校の緑の少年団（六年生）約四百五十人が、東日本大震災によって消失した東松島市野蒜の海岸林に千本の松苗を植栽しました。

これは、東根市と東松島市が友好都市であることから、被害を受けた海岸林を復旧するため、各校の緑の少年団が「松苗育成絆プロジェクト」として、平成二十五年度から育ててきた松くい虫に抵抗性を持つ松苗を、初めて現地に植栽したものです。

当日は、強風が吹く中でしたが、東根市長、東松島市長等の来賓を迎え、児童たち自らの進行により式典、記念植樹のほか、野蒜海岸のゴミ拾いも行われました。

植栽に先立ち、県職員から、海岸の松林には潮害や風害を軽減する効果があることや、震災前の野蒜海岸の様子、植栽方法について説明を行い、海岸における松林の役割の大事さを改めて認識していただきました。

児童たちは、四年生から大事に育ててきた松苗が、震災前のように立派な松林に育つように願いながら植栽していました。

この活動は、「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」の協定締結により、平成二十九年度まで東松島市内の海岸で実施されます。

式　典
（参加９校 約450人）

児童による植栽の様子

（東部地方振興事務所）

森林整備に係る補助金の動向について

全国的な状況として本県の林業も、木材価格の低迷等により、補助金による公的な支援が無ければ持続的な経営が困難な状況にあります。森林整備に係る補助事業の中心は、国の公共事業である森林育成事業（県事業名）ですが、本県では東日本大震災後、復興関連の予算で全面的に賄われていました。

しかしながら、来年度から復興関連の予算が一部に絞られる見込みであり、公共事業予算が縮小傾向であることを踏まえると、事業体の皆様の要望すべてに応えることは、今後困難になる見込みとなっています。

国では、公共事業予算で賄えない要望に対して、森林整備加速化・林業再生事業のような非公共事業を創設するなどして対応してきたところですが、来年度はこれに替わり、次世代木材生産・供給システム構築事業が実施される見込みで、さらにこれに先立ち今年度の補正予算により合板・製材生産性強化対策事業が創設され、搬出間伐や路網整備に対しても支援が行われることとなり、本県でも来年度からの実施に向けて準備を進めています。

一方、県独自にも、みやぎ環境税を活用した温暖化防止間伐推進事業等や、東日本大震災に係る寄付金等を活用した復興木材供給対策間伐推進事業を創設し、国の補助事業を活用できない森林整備に対しても支援できるよう取り組んできているところです。

補助事業を活用されている事業体の皆様には、複雑多岐にわたる事業について混乱を来されていることと思いますが、要望に応えるべく、目的に応じて必要な支援を行えるよう創設された事業ですので、県担当者に相談いただきながら、積極的に活用いただくようお願いします。

（森林整備課森林育成班）

巣植え造林の取組について

近年、伐採後に再造林が行われないまま放置される「造林未済地」が増加し、森林資源の循環利用を確保していく上でも大きな課題となっています。

当事務所では、造林や保育コストを低減し再造林を促進するためのひとつの方法として、平成二十六年度から「巣植え」の実証試験に取り組んでいます。

巣植えは、数本の苗木を寄せ植えする造林方法（群状植栽）で、一箇所一箇所は数本単位の密植ですが、寄せ植え同士の間隔は広くとるため、全体としては植栽本数を少なくすることができます。

今回の試験地では、図のように三・八㍍間隔で、一箇所当たりは三本の寄せ植えにしており、植栽本数は、一㌶当たり二、一〇〇本となっています。

巣植えの効果は、苗木代や植栽労務の低減以外にも、寄せ植えすることにより、

①補植が不要になる
②風雪害など気象害に強い
③雑草木の侵入に抵抗性がある

等の効果が知られています。

また、寄せ植え同士の間隔が広いため、下刈り、除伐等の保育作業が行いやすく、間伐回数の低減や、枝打ちは、寄せ植えした三本のうち、将来残す一本だけ実施すること等により、保育作業の大幅な省力化が期待されます。

当事務所では、試験地を提供していただいた民間の林業会社の方と協力し、保育に係る作業効率や苗木の生長具合などを継続して調査し、巣植えの有効性を検証していくことにしています。調査結果については、今後、皆様にも情報提供してまいります。

（北部地方振興事務所）

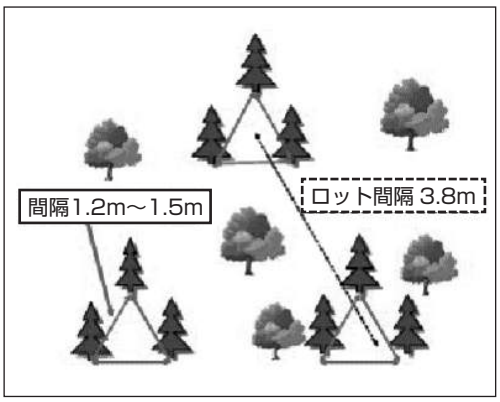
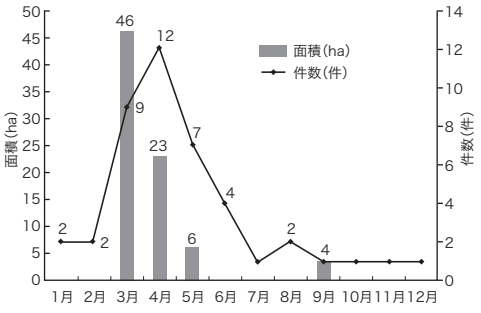


図1　3本巣植えの植栽方法

春の山火事に御注意ください！

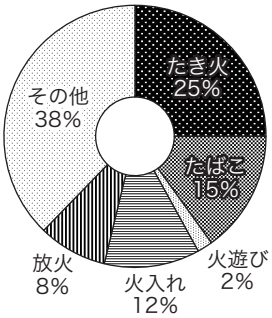
県では、三月一日から五月三十一日まで山火事予防運動を行っています。例年、春先は空気が乾燥し、一年のうちで最も山火事が発生しやすい時期となります。平成二十一年から五年間の平均では、三月から五月にかけて二十八件の山火事が発生し、約七十五㌶の森林が焼損しました。（図一）



（図一）月別発生状況
（平成21年から平成25年までの平均）

判明している原因では、農作業等によるたき火が例年最も多く、僅かな不注意から発生していると考えられます。（図二）

乾燥しているときや風の強い日にはたき火をしない、燃えやすい落ち葉や枯れ草の近くでたき火をしない、たき火の場を離れず最後は消火を確認する、たばこの吸い殻は投げ捨てない、火遊びはしないなど、一人一人が気をつけることで山火事を防ぐことができます。



（図二）原因別発生割合
（平成21年から平成25年までの平均）

山火事は発生すると消火が難しく、広範囲に及ぶこともあります。近年、他県では百㌶を超える山火事も発生しました。

宮城の美しい森林を守るため、火の取り扱いには十分気をつけるなど、御協力をよろしくお願いいたします。

平成28年
山火事予防ポスター

（森林整備課森林育成班）

松島の松林再生に向けた植栽対策について

～試験植栽を実施中です～

特別名勝「松島」は、近年、松くい虫被害や海鳥の糞害等によって植生の荒廃が深刻化し、中には自生していたマツなどの樹木が全て枯損してしまった島なども出てくるようになりました。

しかし、荒廃が進む島しょ部は、常に潮風にさらされる上、表土が非常に薄かったり、海鳥の糞の影響で酸性化が進んでいたりするなど、苗木の生育に非常に厳しい環境にあり、また通常の森林のように気軽に行ける場所ではないため、保育作業の手間が極力かからないことが求められます。

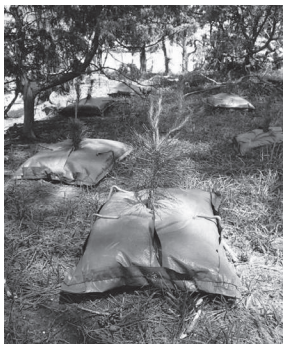
そこで、宮城県では平成二十六年度から二十七年度までの二年間の計画で、みやぎ環境税を活用し、マツ苗木の試験植栽を実施し、松林の確実な再生に向けて調査を進めてきました。

現在まで、マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ二百九十六本、同抵抗性クロマツ二百五十二本、合計五百四十八本のマツ苗木を植栽し、成長状況について経過観察を行うとともに、海鳥対策やマルチング資材施工等の効果調査を実施しています。

今後は、平成二十七年度内に調査結果を取りまとめて、平成二十八年度以降、島しょ部を中心に本格的な植栽事業を進めていく計画としています。

松林と多数の島々が織りなす松島の風景は宮城県を代表する自然景観の一つです。

この貴重な自然環境を保全できるよう、今後も松林の再生に向けて取り組んでいきます。



写真右：海鳥除けネットの設置
写真左：植栽パックによる客土施工

（森林整備課森林育成班）

県民の森中央記念館のリニューアルオープンについて

県民の森中央記念館は、昭和四十四年に開園した仙台市、利府町、富谷町にまたがる県民の森のシンボル的な建物です。

県では、みやぎ環境税を活用し、この中央記念館の全面的な改修工事を行い、このたび、平成二十八年三月二十一日にリニューアルオープンします。

木のぬくもりや安らぎを感じることができるよう、外装・内装に、国産材をふんだんに使うことで、中央記念館は明るく快適な空間になりました。また、生物多様性の保全などの新たなニーズに応えるため、展示物も一新しています。

わかりやすく森や動植物などを紹介するグラフィックのほか、樹皮を直接触れる展示など、大人から子どもまで五感を使って楽しく、森林や自然についての知識を学べる施設に生まれ変わりました。

さらに、中央記念館の南東にある青少年の森森林学習館も改修し、一号展示館（古民家）には木工工作室、二号展示館（洋館）には多目的ホールを設け、利活用の幅を広げています。

なお、オープン当日は記念式典のあと、正午から一般開放します。ふるまいもちやネーチャークラフト体験など様々なイベントを用意していますので、皆様ぜひ御来園ください。

中央記念館外観

森の中をイメージした展示内装

（自然保護課みどり保全班）

施設災害復旧工事の進捗

気仙沼地方振興事務所では、東北地方太平洋沖地震に伴う津波により被災した管内三十四箇所の治山関連の海岸防潮堤のうち、周辺に被害拡大の恐れがある十四箇所について復旧を進めています。

被害が特に大きかった気仙沼市内の四箇所（尾崎千岩田・岩井崎・御伊勢浜・沖ノ田）については、林野庁の代行工事により整備し、残る十箇所については宮城県で復旧整備を行っているところです。

県工事の進捗状況は、館浜（南三陸町歌津）及び高石浜（仙沼市唐桑町）の二箇所が竣工し、波伝谷（南三陸町戸倉）・稲渕（同町歌津）・長須賀（同町歌津）・崎野（気仙沼市）・田中浜（同市）・ヘノ浜（同市）・温浜（同市）で工事着手しています。着手率は九十％となり、鋭意復旧を進めているところです。

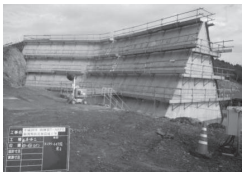
また、国の代行工事については、工事契約に向けて詳細設計が進められています。

ここに至るまで、波浪対策の検討や入札不調等で着工に遅れが生じる地域もありましたが、現在事業の最盛期を迎えるに至っています。

現在建設中のL1 防潮堤

長須賀

崎　野


稲　渕

波伝谷

今後も、現場を担当する職員が一丸となって海岸地域の早期復旧を図ってまいります。

（気仙沼地方振興事務所）

ミニ情報コーナー

林業技術者記章の交付開始！

森林施業プランナー

森林総合監理士（フォレスター）

地域の森林づくりの推進役である「森林総合監理士」と「森林施業プランナー」の認知度向上と活動促進のため、県では記章を製作し登録者に交付しています。

（林業振興課）

研究情報コーナー

海岸林造成に向けた広葉樹の育苗技術に関する取組

■研究の概要

東日本大震災による津波被害を受けた海岸防災林を再生するに当たり、植栽樹種としてクロマツのみならず生物多様性等を考慮した広葉樹の導入が検討されており、植栽時期には、短期間にこれらの苗木需要が急増することが想定されます。しかし、本県における生産実績は少なく効率的な育苗体制が確立されているとは言えません。

本研究では、海岸防災林の植栽候補となり得る広葉樹種を対象に、コンテナ及びポットを用いた育苗試験を行い、苗畑で生産される裸苗との生長量等を比較することで、樹種ごとに適した育苗方法を検討しました。

■結果と考察

十種類の広葉樹（タブノキ、カスミザクラ、ヤマザクラ、オオシマザクラ、コナラ、クリ、アカメガシワ、クヌギ、ケヤキ、カシワ）については、苗畑、コンテナ、ポットそれぞれにおける発芽調査と生長量調査を実施し、最終的に、播種した種子数から一年間（当年生長期内）に規格を超えた苗木をいくつ育苗できたかの得苗率を把握しました。規格は、スギ一年生のコンテナ苗に準拠し、苗高三十センチメートル以上、根元径四ミリメートル以上としました。

コンテナにおける育苗

表に主要樹種三種の得苗率を示しましたが、ヤマザクラ及びケヤキにおいては、苗畑よりもコンテナでの育苗が有効であることが確認されました。

樹種	区分		得苗率
ヤマザクラ	苗畑		22%
	コンテナ	300cc	44%
		150cc	41%
	ポット		30%
コナラ	苗畑		29%
	コンテナ	300cc	24%
		150cc	11%
	ポット		24%
ケヤキ	苗畑		6%
	コンテナ	300cc	34%
		150cc	36%
	ポット		15%

得苗率
（H26・27平均）

今後は、これらの苗を実際に海岸林造成地に植栽し、活着率や生長率調査を進め効率的な広葉樹の植栽手法を検討します。

なお、本研究の詳細は、四月以降に成果報告等によりお知らせします。

（林業技術総合センター）

森林管理署情報

採材に関する現地検討会を開催しました

平成二十七年七月二十九日、南三陸町の国有林において宮城北部森林管理署主催による「平成二十七年度製品生産請負現地検討会」を開催しました。

この検討会は、A材比率の向上と合板用原木の四メートルによる採材を増加させることを目的に、林業事業体をはじめ宮城県森林組合連合会、宮城県森林整備事業協同組合、宮城県南部流域森林・林業活性化センター、宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所、宮城県仙台地方振興事務所、宮城県林業技術総合センター、東北森林管理局青森事務所及び仙台森林管理署の七十八名が参加して行いました。

東北森林管理局では、A材については、木材市況の状況をみながら造材基準寸法調書に基づき有利な採材を行うこととしています。合板用原木については四メートルで採材することを基本としています。

全体説明の後、参加者が各班に分かれ、スギの全幹材について、曲り、節、割れ、腐れ等の欠点を確認しながら実際に採材し、検討を行いました。

この結果、曲り等の状況からA材とすることが可能な範囲が明確となり、A材としての採材率が向上しました。また合板用原木については、四メートル材としての採材率が向上しました。

このほかに、森林作業道作設の技術向上のための資料を添付し、堅固で壊れにくい土構造を基本とする作業道とすることなどを確認していただきました。

本検討会を通じて、一般材や合板用原木に関する採材方法についての認識が共有され、より有利な採材が行われるものと考えています。

全幹材を採材して検討を行う

（宮城北部森林管理署）

木材市況の動向

表1　各共販所別木材市況(平成27年12月)

樹種	材長 m	径級 cm	価格（中値　単位：円／㎥） 仙南	石巻	仙北	東和	大衡	津山
スギ	3.00	14～16	—	—	—	9,000	9,000	—
		16～30	9,720	9,000	—	—	—	—
		20～30	—	—	—	—	—	9,000
	4.00	10～13直曲	7,200	9,500	9,720	9,720	9,500	9,500
		14～18	9,720	9,500	9,720	9,720	10,000	9,500
		20～28	—	10,080	9,720	9,720	—	—
		30上	—	10,080	9,720	9,500	—	—
	3.65～4.00	20～28	9,720	—	—	—	10,080	10,000
		30上	9,720	—	—	—	10,080	10,000
	1.95	16上	—	—	6,120	6,120	6,120	6,120

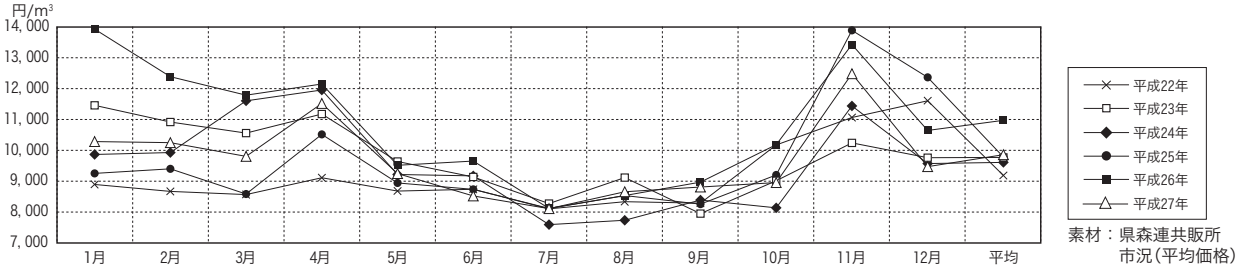
資料：宮城県森林組合連合会

概　況

素材動向

各センターの入荷量は少なかった。4.00m中目材・小丸太は材不足なこともあり強含みでの動きが見られたが，30cm上の材には応札が少なく元落ちが目立った。

今後も小丸太材については横這いから強含みでの動きになると思われるが，その他は横這いでの動きが続くと思われる。



素材：県森連共販所市況(平均価格)

図1　素材価格の動き

特産市況の動向

表2　生しいたけ価格の市況

単位：円／kg

年　次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成23年	924	862	778	758	740	773	754	797	868	861	867	975
平成24年	939	875	798	755	611	711	707	785	829	882	835	1,004
平成25年	989	918	890	814	827	730	730	802	840	880	903	1,009
平成26年	1,010	1,001	917	781	851	859	891	912	911	874	981	1,094
平成27年	1,144	1,055	984	916	886	766	852	948	960	970	962	1,038
平成28年	1,037											

資料：仙台中央卸売市場

概　況

- 平成25年次分県産平均単価＝861円/kg
- 平成26年次分県産平均単価＝924円/kg
- 平成27年次分県産平均単価＝957円/kg
- 平成27年次は，平成26年次の高値の流れを引き継ぎ，春まで例年にない高値での取引が続いた。平成27年次の平均単価は対前年比+33円と依然として高値での取引が続いている。
- 平成27年次の県産生しいたけの入荷量は402tであり，前年から41.5t減少している。
- 平成27年次の県産生しいたけ市場占有率は73%であり，前年から2ポイント減少した。

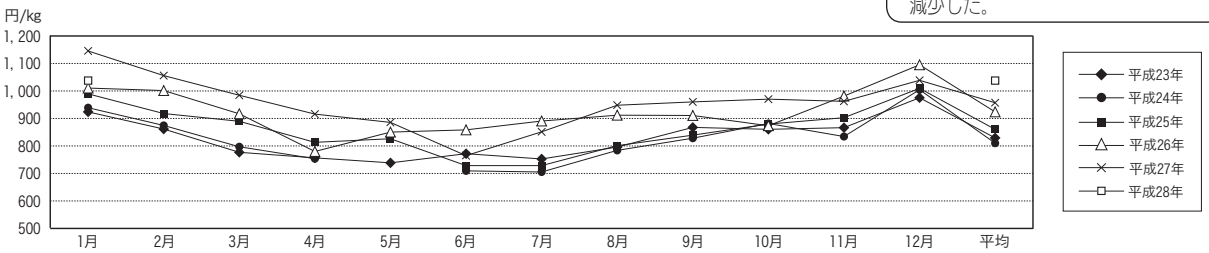


図2　生しいたけ価格の動向

表3　宮城県の新設住宅着工戸数(平成27年12月)

項　　目	総　数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
平成27年12月(戸)	2,366	1,348	1,018	57.0
平成26年12月(戸)	1,733	1,224	509	70.6
前年同月比(%)	136.5	110.1	200.0	———
平成27年1月～27年12月(戸)	23,719	15,696	8,023	66.2
平成26年1月～26年12月(戸)	26,039	15,248	10,791	58.6
前年同期比(%)	91.1	102.9	74.3	———

資料：住宅着工統計

概　況

新設住宅着工戸数

○12月分
- 12月の新設住宅計は前年同月比で大きく増加している。木造も増加しているが，非木造が2倍になっている。
- 利用関係別では「分譲住宅」が倍増している。

○平成27年次
- 県内の着工数は前年に比べ，8.9%（-2,320戸）減少した。
- 構造別では，木造が前年より微増(2.9%増)しているが，非木造は3割(25.7%)近く減少している。
- 利用関係別では，持ち家が前年と同等で，それ以外(貸家・給与住宅・分譲住宅)が減少している。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負

宮城十條林産株式会社

代表取締役　亀山征弘

本社　〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261－2151㈹　FAX(022)261－2150
営業所　気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場　気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社　宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

明治41年創業
～100年かける家づくり～

株式会社サカモト

自然との共生、めぐるめぐみ をテーマに、
私たちは森を愛し、大切に育てていきます。

〒989-1601　宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12
Tel:0224-58-1100　Fax:0224-58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事　亀山征弘
専務理事　亀山武弘
理事　小山松夫
理事　佐々木市夫
監事　阿部貢
監事　小澤幸三

〒980-0871　仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話　022(261)2151　FAX　022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長　奥津文男
副会長　亀山征弘
副会長　永井政雄
副会長　米澤光秀
副会長　山形喜昭
ほか理事一同

〒980-0871　仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話　022(261)2151

見て触れて 住んでしみじみ 木の住まい

宮城県木材協同組合
理事長　佐藤豊彦

宮城県木材需要拡大協議会
会長　佐藤豊彦

みやぎ材利用センター
会長　佐藤豊彦

〒981-0908　仙台市青葉区東照宮1－8－8
TEL：022－233－2883　FAX：022－275－4936

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事　遊佐勘左衛門
事務局長　佐々木治樹

〒989-6165　大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

森林は大切な資源です
森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます

一般社団法人 **宮城県林業公社**
（森林整備法人）

〒981-0914　仙台市青葉区堤通雨宮町4－17
TEL (022)275-9171　FAX (022)275-9172
http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp

みやぎ地域森林整備加速化・林業再生推進協議会
（宮城県森林組合連合会内）

《構成員》
宮城県林業振興協会・宮城県森林組合連合会
宮城県木材協同組合・宮城県森林整備事業協同組合

〒980-0011　仙台市青葉区上杉2－4－46
電話　022(225)5991

地域林業の活性化と農山村地域の振興・発展に貢献

林業従事者の退職金共済・社会保険への助成，林業就業支援講習・「緑の雇用」現場技能者育成研修・森林・林業人材育成加速化事業等の実施，就業相談会の開催，林業関係雇用情報の収集と無料職業紹介等を行っています。

公益財団法人　みやぎ林業活性化基金
宮城県林業労働力確保支援センター

〒980−0011　仙台市青葉区上杉2丁目4−46　宮城県森林組合会館内
TEL／FAX　022−217−4307

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は
信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

筒井鋼機株式会社

本　　社　仙台市青葉区花京院二丁目2−22　TEL022−224−1261・FAX022−265−9231
盛岡営業所　盛岡市青山四丁目47−32　TEL019−641−7713・FAX019−641−7807
郡山営業所　郡山市田村町金屋字新家34−1　TEL024−944−5912・FAX024−943−5987

E-mail　info@tutuikoki.co.jp
U R L　http://www.tutuikoki.co.jp

春期募金期間 4月1日〜5月31日　**秋期募金期間** 9月1日〜10月31日

公益社団法人宮城県緑化推進委員会
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎内
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託　農林中金森林再生基金」（農中森力（もりちから）基金）等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫　仙台支店

〒980－0011　仙台市青葉区上杉一丁目2番16号（JAビル宮城内）　☎022（711）7531（代）

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4－46
TEL022-225-5991　FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は
仙南木材センター　0224-65-2166　東和木材センター　0220-45-2240
大衡綜合センター　022-345-2205　津山木材センター　0225-68-3038
岩出山木材センター　0229-72-1877

■樹木の枝や根の有効利用は　ウッドリサイクルセンター　022-345-6041

◎山林用苗木生産、海岸防災林復旧事業用抵抗性クロマツ苗木生産

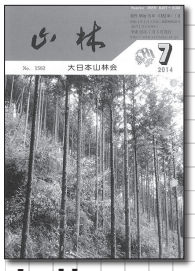
宮城県農林種苗農業協同組合

〒980－0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL（022）222－3661　FAX（022）222－3688

林業の今を伝える月刊誌　平成28年度の購読申込受付中!!

GR 現代林業
A5判　80頁
年間購読料 5,200円（送料込み）

林業新知識
B5判　24頁
年間購読料 2,800円（送料込み）


山 林
A5判　66頁
年間購読料 3,500円（送料込み）

図書の申込、問い合わせは
宮城県林業振興協会
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階
TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

発行　宮城県林業振興協会　仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号　☎〇二二―三〇一―七五〇一
編集協力　宮城県農林水産部林業振興課